平成 23 年 4 月 1 日
第 47 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

建設が進む新しい農業倉庫


排水路を造るための擁壁工事が進んでいる

農事組合法人八方原では、地域内の北側圃場の一角にある養鶏舎の跡地に新たな農業倉庫を建設中です。

現在整地や排水路などの土木工事が進められています。路盤の高さは現状よりおよそ1メートルほど盛り土がされ、高くなる計画です。昨年、一昨年の豪雨の際の経験が生かされているようです。

八方原の環境を守る会では、この事業を排水路の材料提供など側面から支援しています。

自身の心を成長させる

3月27日、地区内の不動尊前で「感謝法要」が行われました。台風禍などで不動尊の座像などが傷んでいたのを修復したことから始まった「感謝法要」は今回で4回目を迎えました。

地区内外から40名余の人々が参加し、厳かに法要が営まれました。終わりの説法の中で「信仰は自身の心の成長のためのもの」という考えが示され、多くの人が頷いていました。


佐賀県から二人の僧侶が来場して法要

重大自然災害に見る 自主防災組織の必要性

突然の災害にどう備える

3月11日の午後東北太平洋沖で起きた大地震は、我が国史上最大の惨事となりました。地震の規模、恐ろしいばかりの津波、火事、それに原子力発電所の事故。こうまで不幸が重なるのかと言葉を失ってしまいました。

数万人にも及ぶかもしれない行方不明者、日を追って明らかになる被災者の数にやりきれない気持ちを持っている人は少なくないと思います。

現地での実情は新聞やテレビなどで知るしか方法はありませんが、何もかも失った被災者の方々に、どんな言葉もむなしいような気がします。。

被災者の救援にはたくさんの方が関わっておられます。またお互いが助け合い、支えあって体制がつくられているのだろうと想像しています。

被災者支援の様子を見る中で、非常にてきぱきと炊き出しなどが行われている自治会の活動が印象に残りました。そこは、被災の状況も他のところと比べて深刻ではなかったのかも知れませんが、自主防災組織の存在を指摘していました。

小郡地域でも既に数地区が、緊急の際への対応に向けて自主防災組織の立ち上げが行われています。救護班、消火班、炊き出し班などを事前に役割分担して決めておき、緊急時に備える体制を素早く起動させていくものです。私たちもこれから考えていく必要があるかも知れません。

「棟上げに餅まき」は山口独特のもの？



雨の中、合羽や傘をさしての餅まきとなった

地区に新たな住宅が建てられました。新町西から青木さんが引越して来られる予定です。

3月20日は「棟上げ」が行われ、餅まきも行われました。生憎の雨で盛大にというわけにはいきませんでしたが、みんなで新築を祝いました。

この棟上げでの餅まきというのはこの近辺の習慣のようで、お隣の広島県では行われていないようです。

徒歩通勤の雪の朝

3月4日は市全体で「ノーマイカーデイ」として通勤に自家用車を使用することを控えるという一日でした。

地域の事業所、山口金属曲板工業では自家用車通勤を完全自粛、社長も早朝徒歩で出社されていました。

当日は折からの寒波で雪の朝でしたが、自動車を使わないと本当に不便なこの地区でも社員の皆さんは自転車や徒歩で通勤しておられました。

省エネルギーを口にするのは容易なのですが、実際の行動は簡単ではありません。私たちも、日々の暮らしの中で何ができるのか考えてみませんか。

LED防犯灯で明るい地域に



LED防犯灯は価格は高いが維持費が安い

おごおり地域づくり協議会は、LED防犯灯を実験的に各地区に導入して普及を広めるという事業を決定しました。新しい地区では既に全てLED防犯灯というところもありますが、当地区では一つもありません。そこで一番古い電球式の防犯灯LED防犯灯に交換してもらいました。場所は役吉商事事務所の北側です。

長寿命で消費電力の少ないLED防犯灯が今後の主流になります。当地区でも新たに3カ所設置する予定でしたが、申請の手続きや引き込み線の段取りなどで22年度の工事は無理となりました。23年度の早い時期に新設されるはずです。

スコップがお気に入り

愛犬の散歩というと、飼い主がリードをつけた犬を連れて歩くというのが定番ですが、亀井組の倉庫を歩き回るのは藤田さんの飼い犬で闘犬の「信長号」です。

藤田さんは朝の早い時間に、倉庫の入り口を仕切って、信長号の運動時間にしています。ただ歩いたりするのではもの足らないのでしょう。口にくわえているのは、土木で使うスコップ。その柄の部分ををがぶり。のしのし歩き回っている姿は迫力があります。長く闘犬の横綱として活躍してきましたが、今まで負けたことがないというつわものです。



小さい時は「かず」と呼ばれていた信長号

防長バスが路線変更

平成20年から運行が始まった路線バス。残念ながら3年間の運行の間、利用者は伸びませんでした。この3月で路線が変更になり、国道9号から権現堂橋を渡って県道山口小郡秋穂線を走ることになりました。

市の交通政策課では利用できる公共交通機関からの距離に応じて、地区内の65才以上の方々にタクシー券を発給することになりました。当地区では300円の割引券が年間60枚交付されます。